科目ナンバリング	U-LAS00 20001 LJ34				
授業科目名<英訳>	自己存在論Ⅰ Ontology of Self I			担当者所属職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　安部　浩
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(各論)	使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2026・前期	曜時限	木3	配当学年	2回生以上	対象学生	全学向

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

「自己存在」は人間存在を特色づける基本的な規定の一つであり、哲学史上、精神、主体、自己意識、実存、現存在、一人称といった概念の下で究明され続けてきたものである。時の古今を問わず、洋の東西を問わず、こうした考察が絶えず繰り返されているという事実は、「今ここにこうしてある私とは何者であるのか」という問いが、我々にとっていかに根源的であり、そしてまたいかに抜き差しならないものであるかをいみじくも物語っていると言えよう。

本講義のねらいは、そのような「自己存在」を基軸としながら、主として近現代の哲学における諸問題を考究し、もって受講者各人自身による思索の歩みを裨益せんとすることにある。

もとより「ゼルプスト・デンケン（自分で考え抜くこと）」は、決して一朝一夕になしうるものではない。だがそれこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを受講生諸氏が本講義を通して感得されんことを冀ってやまない。

[到達目標]

「ゼルプスト・デンケン（自分で考え抜くこと）」は、決して一朝一夕になしうるものではないとはいえ、それこそが哲学をすることの生命であり、そしてまた一身を賭して試みるに値する事柄であることを理解する。

[授業計画と内容]

京都学派の哲学の鼻祖、西田幾多郎。自己存在を考究せんとする際、彼の思索との対決は不可避の課題の一つである。何故か。

処女作『善の研究』において西田は言う。「最も根本的なる説明は必ず自己に還ってくる。宇宙を説明する秘鑰（ひやく）はこの自己にあるのである」。爾後、彼は「自覚」、すなわち「自己が自己に於いて自己を知る」という自己存在の有り様の解明に傾注し、やがてそれは「真の我」たる「場所」の概念の導入を以て更に深化するに至る。事程左様にして、西田の思索の事柄（の一つ）は終始一貫して、自己存在に他ならなかったと断じても決して過言ではないのである。

今年度の「自己存在論Ⅰ」では、西田哲学における自己存在論の考察を通して、その眼目を詳らかにしていきたい。

目下のところ、以下のような課題について、1課題あたり2~3回の授業を行う予定である(但しこの予定は適宜変更される場合もある)。なお授業回数はフィードバックを含め、全15回とする。

1. 『善の研究』の概要
2. 同書の自己存在論
3. 『自覚における直観と反省』の概要
4. 同書の自己存在論
5. 「場所」の概要
6. 同論文の自己存在論

自己存在論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

自己存在論Ⅰ(2)

[履修要件]

哲学系科目I・II（哲学I・II、倫理学I・II、科学論I・II、論理学I・II等）の中、少なくとも一つを既修していることが望ましいが、そうでない場合にも本授業を履修して頂くことは可能である（その代わりに頑張って私の話に付いてきて下さい）。

[成績評価の方法・観点]

定期試験によって評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

授業中に指示する文献を予習し、筆記した講義ノートを復習する。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]